



SPACE No.41

日本臨床心理身体運動学会会報第41号 2023年8月25日

編集発行 日本臨床心理身体運動学会 会長 山中康裕

【研修会・講習会に参加して…参加方法の違い

…オンサイトとオンライン】

昨年12月に佐賀県（西九州大学）にて開催されました第24回大会は、オンサイトとオンラインの併用というハイブリッドで行われましたが、それに引き続きまして、2023年6月11日に第73回研修会・第44回講習会も同じくハイブリッドという形で、京都府（キャンパスプラザ京都）にて開催することが出来ました。

コロナ禍から、オンラインやハイブリッドでの学会や研修会などの開催がさまざまな領域で行われるようになり、その功罪もさまざまに論じられてきました。今回の研修会・講習会にオンサイト・オンラインで参加された方に、この臨床心理身体運動学会の学会員ならではの思いを語っていただきました。このようなご意見も今後の学会大会・講習会・研修会に生かしていければと思います。

事例検討を体験して

立石 芽（鹿児島大学心理臨床相談室）

2023年6月11日、第73回研修会にて事例を発表、検討していただきました。ハイブリッド開催であった今回の研修会・講習会にはもともと現地のフロアでの参加を予定しており、コロナ禍に入会した私にとっては初めてのリアルでの研修会・講習会ということで、純粹に、ある意味気楽に、楽しみにしていました。また、京都という土地を訪れることも初めてで、この国の心理臨床が育った土地の空気や自然や街を感じられるということも楽しみのひとつでした。そのような気楽さでしたので開催のちょうど1週間前に事例を発表しないかと声をかけていただいたときには、思わず「私ですか」と？を5つぐらいつけて聞き返してしまいました。ただ、声をかけていただいた時間や場所、一緒にその場にいた先生など関係性のなかでの偶然が重なったことで、この偶然とタイミングにのってみようと思えることができました。事例検討を通しての想いを述べる前に、まずは、その機会と偶然をつくっていただいたこと、背中を押していただいたこと、中島登代子先生と槇山春香先生に心から感謝申し上げます。

1週間、寝ても覚めてもケースについて考え続け、これでいこうと思える発表資料をなんとか作り終えた数時間後には初めての京都を訪れていました。前日の夜、鴨川沿いをぼーっと散歩していると、1週間ひたすらにまわり続けていた自分のなかの流れが少しずつゆるやかに思え、街の中心を自然が流れ続けているというのはとってもいいなあなどと考えていました。最後は鴨川に助けられ、整えてもらったように思います。また、午前中に山愛美先生による講習をお聴きできたことも非常に大きかったです。自分が発表する事例での体験と通ずるものを多く感じながら先生のお話をお聴きしており、今日このタイミングで、この場所で、この事例を発表することの不思議さを思っ

ていました。

さて、ここまで研修会で事例を提供するまでのことを書いてきましたが、いざ事例検討の場での体験を書こうとしてみるとうまく言葉がでてきません。事例検討の場での体験や記憶は、今はまだ夢を見ていたようにぼんやりとしており、ここに言葉として書き記せるものがほとんどないように思ってしまう。「事例検討を体験して」というタイトルでありながらすみません。ただ、ひとつだけ、心理臨床の世界は本当に奥深く、不思議で、いくら学びを重ねても足りない果てしなさがある、とあの時間に強く思っていたことだけは覚えています。遊びのなかのボードゲームひとつとっても、将棋とチェスまたはオセロなど、ゲームが異なれば育まれた文化も歴史も異なり、遊ぶなかで生じる体験や多くのおもちゃのなかからそれを選択したクライアントが生きる世界へのイメージも全く違ってみえてきます。大学院在学中は心理に関する本を読むだけでも時間が足りないと思っていましたが、目の前のクライアントがもつ体験を世界をイメージして可能な限りその場所を共に過ごすためには、臨床心理学の勉強にとどまらず、どんな知識や体験にも開かれていないといけないとそう感じました。そしてそれは、たったひとりの人間がもつ世界の深さや果てしなさを感じる体験でもありました。河合隼雄先生が「ひとりの子どもにとことん付き合っているとものすごいことが分かってくる」と子どもの宇宙という本を書かれています、本当にその通りだと感じます。事例検討の間中、発表の緊張と相まって、とんでもない世界にきちゃったという気持ちで終始ワクワクドキドキしていました。初めて大学院以外の場所での発表にあたふたと落ち着かない私にあたたかいコメントをくださり、そのような深く果てしない心理臨床の世界の教えてくださった、指定討論者の中島登代子先生と名取琢自先生、司会の高橋幸治先生、そしてフロアの先生方に深く感謝いたします。多くの出会いと関係を大切に、偶然を意味ある偶然としての体験にできるような臨床家を目指して、日々精進していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

第 73 回研修会・第 44 回講習会へオンサイトにて参加して

島田 愛乃（静岡県スクールカウンセラー・菊川市立総合病院）

2023 年 6 月 11 日キャンパスプラザ京都にて行われた第 73 回研修会・第 44 回講習会へオンサイトにて参加しました。キャンパスプラザ京都での開催は 2020 年 2 月に予定されていたものの、新型コロナウイルスの影響で中止となり、3 年ほどの年月を経てようやくその地でも開かれるハイブリット開催となったようでした。

個人的なことですが、私は 2020 年 2 月に出産し、コロナ禍へ突入、2022 年に第 2 子を出産しております。そうした状況のため、遠く離れていてもオンラインで繋がれるということにありがたさを感じていました。しかし、今回はなんとしても直接会場へ行きたいと思えました。発せられる言葉その場でききたい、場を体験したいと思えましたし、何より「人に会いたい」と思ったのです。

当日は京都へ向かうその道程の中で高まった緊張感、高揚感を持ちながら会場入りし、そこで人と出会えて大きな喜びを抱きました。雨が降りそうな湿った空気の中、人々が集う場の雰囲気や温度感は、そこにいたからこそ味わえたものであったと思えます。

そして講習会では『記憶と時間ー「体験」から「体験」へ』という山先生のご講義を拝聴させていただきました。山先生の語りから村上春樹氏の世界を通して、人々に積み重なる記憶とはどういうものかを体験させていただいたように思います。記憶がそう繋がっているのかとハッとさせられたり、自分の過去の記憶が呼び起こされたりしながら連想が広がる、不思議な体験でした。また、こちらの世界と向こうの世界の関係、それほど隔たれていないヒヤッとするような感覚も受けました。

続いて午後の研修会では立石先生による事例を聴かせていただき、指定討論者の名取先生と中島先生からのお言葉を拝聴いたしました。事例を通してあたたかな気持ちになり、なんだか泣きそうになりました。私は“分離”について考えることとなり、こうあらねばと思う自分に気づくとともに、そ

れを超えて、自然な関わりの中でセラピーが流れていき、CIが変化していく姿に感動しました。また、事例の中で出てきたことが午前中に講習会で語られていたこととシンクロしていて、それは会の始めに司会の高橋先生よりお話しされたことがまさにその通りに起こったことでもあり、鳥肌が立ちました。

今回こうして振り返って書いてもうまく言語化できていないのですが、講習会・研修会に参加し、自分の中で止まっていたものが流れ始めたように思います。臨床へ向かっていくエネルギーをいただいたようにも思いました。また、オンサイトの会場に居ながらオンラインの方々とも繋がっていて、それは各々が深く掘った先で繋がるような不思議な体験でした。研修会・講習会でこのようなことを体験し、その場に居られたことが嬉しかったです。次回の研修会・講習会も心待ちにしております。

オンライン研修に参加して

高木紀子（コミュニケーションサポートセンターふくふく）

コロナ禍で始まったオンライン研修には何度か参加させていただきましたが、今回はハイブリッド研修でのオンライン参加となりました。

オンラインとオンサイトでは、自分の中の違うセンサーが動いている感覚で、それぞれ違う学びができます。

オンラインでの研修が始まった当初は、これまでのように感じる事ができるのか甚だ不安でしたが、実際行くと、オンサイトとは違う感覚でありながら得るものが大きいことに気が付きました。発表者や講師の方の世界と自分とだけの世界に入りやすく、周囲の現実的なこと（例えば研修が終わった後に安全に帰宅しなければいけないことなど）を気にせず深く深くその世界に潜っていく感覚は、とても新鮮でした。ただ、このような没入感はあるながらも「全員が繋がっている」ことも強く感じます。オンサイトよりも一人一人の顔がはっきり見えることに助けられているのでしょうか。いわば自室が会場となり、参加者全員での「場」が出来上がっているようでした。オンサイトと大きく違うのは、お互いに感じていることをより言語化しないとイケないということでした。オンサイトではことばにしなくても伝わり合い共有できるものがあるのですが、オンラインではさすがにそこは難しく、思いを一つ一つことばにして出さないとイケません。言語化が苦手な私は言語化の訓練機会になりました。

さて、今回はハイブリッドのため、“オンサイトの良さも感じたい”欲が出てしまいました。どうしてもその場の雰囲気を感じ取るまでには至らず、なぜ自分はその場にはいないのだろうともどかしく、オンサイトならではの空気感を羨ましく感じながらの参加となりました。これはオンライン上でも“会場での空気感があるらしい”ことまでが分かったからこそだと思います。会場でのカメラワークや音声など、スタッフの先生方のご苦勞を感じ感謝ばかりです。今回はオンサイトで参加できるようにと思います。

コロナ禍は“わざわざ”ではありましたが、新たな学びのきっかけとなり、今こうやって両方の学び方が経験できるとは贅沢なことだなあ、と感じています。

第44回講習会・第73回研修会にオンライン参加して

槇山春香（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科）

コロナ禍でやむなく始まったオンライン形式の研修会や事例検討会ですが、これまで3年ほどの間にずいぶんハード面もソフト面も充実し、それを使いこなす私たちも様々な新しいものを取り入れ、これまでの対面で大切にしたいことをいかにすれば守れるかを考えながら試行錯誤しつつ、時には、妥協し、受け入れ、譲れないものは譲らずに、進化してきて今があると思います。

今回、学会の講習会、研修会では、初めてのハイブリッド形式での開催となりました。これまでも、学会大会でのハイブリッド開催はありましたが、それらは陰でプロの力を借りての開催でした。おそらく、今回は学会のスタッフでのみ準備されたのではないのでしょうか。とても大変だったことと思いますが、ここ数年の経験や体験をもとに熟考され「満を持して」といった様子がうかがえました。本当にありがとうございました。

どうしても九州の端っこにおりますと、参加したくともオンサイトでの参加は難しいことが多くあります。このコロナ禍でオンラインの研修会や学会が開催されるようになったことで、距離を超えて参加できることは一番のメリットと本当にありがたく感じます。

事例検討は、オンラインではなかなか場が作り出す空気や参加者の息遣いや共有する様々な音やにおい、雰囲気といったものが感じにくく『やっぱりオンサイトだよ』という声も多く聞かれると思いますし、私も最初はそう思っていました。しかし、今では、オンラインにはオンライン独特のつながり方があるように感じます。事例提供者の工夫もあるのかもしれませんが、事例を聞いていて独りぼっちな感覚はありません。他の参加者の顔が見えることも大きいかもしれません。そして、私の場合は、もしかするとオンサイトで参加しているよりも、事例に対するコミットの仕方がぐっと自分自身に近くなるような感覚がします。うまく言葉にはできませんが、これまでオンサイトでは参加者やその場の状況に強く影響されていたのだと思います。

今は、1枚の描画や箱庭から面白い方向に連想（妄想とも言えますが）が広がったり、レジュメはなくとも、その中で気になったところや自分の引っかかったところから、深く展開していったりと、時には会場の話題に置いて行かれることもあります。ちゃんと自分に必要なことは耳に入ってきて、深い学びにつながっていくように思います。また、オンラインならではのコンステレーションも起きたりしますので大変、興味深いです。ただ、これも、対面の事例検討や学会への参加が増えてれば、もう少し比較の仕様があるのですが、今はまだ、もっぱらオンラインが多くもう少し検討の余地がありそうです。

編集後記 コンピュータの技術がどんどん進化し、そして広く普及してきたことによって、心理臨床や身体を取り巻く状況も変わりつつあります。その中で私たちの人との関わりについての感覚も思いも、変わるところも、変わらないところもあります。その場にあって向き合うことで得られるものと、その場になくても通じるものや感じられるもの、その場になくからこそ感じられたり思いが深まったりするところなど、たくさんの学びがあると思います。そこから浮かび上がってくる臨床の学びを大切にしていきたいです。

また、ご意見等受け付けています。SPACEの上で議論したいこと、伝えたいことなどありましたら、お寄せください。 (仁里)

SPACE No. 41
日本臨床心理身体運動学会 会報第 41 号
2023 年 8 月 25 日発行
日本臨床心理身体運動学会
会 長 山中康裕
編集責任 仁里文美
事務局 〒600-8449
京都市下京区新町通松原下ル富永町 107-1
株式会社 木立の文庫内
TEL : 075-585-5277
FAX : 075-320-3664
E-mail : office@rinsinsin.jp